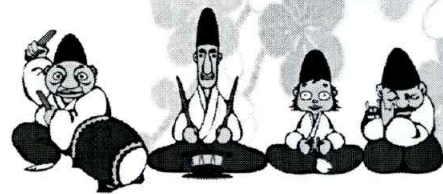


～石見神楽 in 近畿益田会～

平成 26 年 1 月 26 日

●社中紹介●



【石見神楽 三谷神楽社中】

明治初年、大神楽宮司大石千代太が中倉の三浦民七に教えて一座をつくらさせたのが三谷神楽のはじまりです。昭和56年に無形民俗文化財として美都町指定を受け、郷土芸を後世に伝えるために団員一丸となって練習を行っています。現在団員数は約20人です。

●演目紹介●

【鈴鹿山～SUZUKAYAMA～】

第五十代桓武天皇（781年—806年）が坂上田村麿（756年—811年）に鈴ヶ山の悪鬼人を退治するよう命じる。田村は早速鈴ヶ山の麓に行き、村人の道案内を受けて登山し悪鬼人を退治する。武勇伝である。後に闘將軍として名声高き武士になる。

【恵比須～EBISU～】

この神楽は一般的に、恵比寿大黒と言って「芽出鯛」鯛釣りをすることから婚礼を初め色々なお祝いのイベントに招かれることが多く、最後の親子での掛け合いの台詞もめでたい内容でまとめられている。又大国主命、事代主命と言った親子の舞でもある為家運隆盛を願う意味から願う意味からも婚礼には欠かせないものとされている。

【大蛇～OROCHI～】

須佐之男命が、川をのぼってみると、そこに老夫婦と娘が嘆き悲しんでいました。命が訳を聞くと、この奥山に大蛇が住み、娘をさらって行くと言います。これを聞いた命は、娘を妻とすることを条件に大蛇退治を約束します。大蛇は頭が八つに尾が八つあり、腹は血でただれているといひます。命は老夫婦に濃い酒を造らせ、大蛇が酔い伏したところを退治します。